

論 文 要 旨

学籍番号	81033191	氏 名	黄 欣茹
論文題目： 中国の大気汚染問題における日本の技術移転の効果評価と課題			
<p>(内容の要旨)</p> <p>中国における石炭を主体とする生産と消費の構造は、直接的にもたらされる結果としては、環境汚染の深刻化という問題がある。中国地区では毎年大気汚染により 35 万数人が死亡することになっている。現時点、中国が石炭利用から脱却することは不可能であり、中国の大気汚染問題を解決することが重視なければならない。本研究は中国の大気汚染物質の中で二酸化硫黄を注目した。</p> <p>本研究の目的は、中国の大気汚染を改善させるため以下の 2 つである。(1) 日本の排煙脱硫技術を中国に移転の場合、健康被害患者の減少数を推定し、環境汚染の改善効果の評価することである。(2) 中国の政府に実際に実行可能な改善案を提案し、期待される改善効果と実行の際に遭う問題点の検討することである。排煙脱硫技術の需要側の中国、技術の提供側の日本、中国大気汚染の現状と日本技術の強みを把握した上、ステークホルダー分析・SWOT (SWOT analysis) の手法を使って、日本の技術を中国に移転する際の問題点を洗い出した。中国と日本の排煙脱硫装置の SO₂ 排出係数を計算し、各環境機関による収集したデータを用いて、日本の技術を中国に移転する場合、大気汚染に関わる患者数の削減人数を求めた。</p> <p>結果として、WHO 提供した数値よる日本の技術を移転する場合一年間中国の大気汚染に関わる人数は 22.085 万人であることを予測した。そのため、日本の技術移転は中国の大気汚染に関わる患者数が大幅に削減させるだろうと考えられる。尚、経済面で技術移転による減少される医療費用を算出し、日本の技術を中国に移転するメリットを提案する。</p> <p>しかし、最先端の技術を持っている日本企業は排煙脱硫技術を中国に導入する際に遭った難関と日本の企業側と中国企業側に現存している問題点を考察する。本研究は日本の排煙脱硫技術を用いて、中国の大気汚染問題を改善させることに期待される。</p>			
<p>キーワード (5 語) 大気汚染、健康被害、技術移転、二酸化硫黄、排煙脱硫装置</p>			